



## 「抗酸菌について」の巻

### 抗酸菌とは？

抗酸菌は、結核菌群と非結核性抗酸菌、培養不能ならい菌に分けられます。結核菌群はヒトの結核の主要な原因菌である *Mycobacterium tuberculosis* (結核菌)、*M. bovis* (ウシ菌)、*M. africanum* (アフリカ菌)、*M. microti* (ネズミ菌)、*M. caprae* (カプレ菌)、*M. pinnipedii* (アシカ菌) の6菌種となります。これらの菌種はDNAレベルの相同性では区別がつかないため、結核菌群としてまとめられています。非結核性抗酸菌は、菌の発育速度、発育したコロニーの性状や発色変化によって分類 (Runyon分類) されています。主な病原菌種は *M. avium*、*M. intracellulare*、*M. kansasii*、および *M. abscessus* complex の4種です。

### 伴侶動物の抗酸菌分離状況

我が国でのヒトの結核罹患率は人口10万人あたり13.3 (2017年度) と「中まん延国」であり、16,789人の患者が報告されています。一般の方のみならず医療従事者においても結核への関心が低下しているのが現状です。ヒトの抗酸菌検査数も激減しており、伴侶動物においても抗酸菌の検査数は僅少です。当施設では2015年～2020年の6年間で35件の検査依頼がありました。しかしながら、7件の陽性 (20%、全て非結核性抗酸菌) と多く、大変重要な検査と実感いたしました。抗酸菌検査陽性例は猫の症例のみとなっており、分離菌種は *M. avium* でした。検査材料は呼吸器由来感染症が多いです。感染症マーカーの上昇、一般細菌培養検査陰性、痰咳や胸水の貯留がある場合には、抗酸菌の関与を疑ってみることも重要です。

### *Mycobacterium avium*

*M. avium* は、水系や土壌などの自然環境に限らず、人間生活に必要な給水にかかわる環境に広く生息しています。温水中でも生息可能なため、ジャグジーや温水プール、岩盤浴などにも存在しています。これらの環境から菌を含んだ水滴や埃を吸い込むことにより感染すると推定されています。当施設の症例も室内飼育の猫より *M. avium* が検出されているのは、抗酸菌が生活環境に生息しているためと考えられます。

次回は抗酸菌検査についてご説明いたします。